

平成21年 4月30日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2006～2008
課題番号：18520190
研究課題名（和文） 近代初期英国における放浪文学と社会的変動との関連性 についての研究
研究課題名（英文） A Study on the Relationship between the Vagrancy Literature and Social Movement in Early Modern England
研究代表者 滝川 睦(Takikawa Mutsumu) 名古屋大学・大学院文学研究科・教授 研究者番号：90179573

研究成果の概要：近代初期英国における放浪文学と当時の英国都市・農村の変動および民衆の心性の変化との密接な関連性を、近代初期英国の放浪文学と浮浪者取締法や救貧法との連関、デラシネの主体が当時の社会に与えた不安、エンクロージャーや農民暴動に代表される社会的変動、悪漢文学と放浪文学との関連性、国王の行幸、宮廷仮面劇そして宮廷祝祭のパジャントリーにおける境界侵犯の要素、近代初期英国における漂泊する女性像などに焦点を合わせて、解明した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,400,000	660,000	4,060,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：近代初期英国、放浪文学、社会的変動、シェイクスピア、悪漢文学、浮浪者取締法、救貧法、女性化

1. 研究開始当初の背景

これまで近代初期英国文学研究において、放浪という概念がテーマ化されることがあっても、放浪文学というジャンルを設定し、そのジャンルが近代初期英国における社会的変動といかなる結びつきをもっていたのかという点を解明した研究はほとんど存在しなかった。本研究のねらいとして(1)上記のこれまで研究が不十分だった放浪文学の実態を解明すること、(2)新歴史主義批評の視座から文学テキストと歴史的テキストを同一地平上に存在するものとみなし、従来

の歴史的立場からの、近代初期英国の放浪のテーマを扱った研究を批判的に検討・修正すること、(3)文学作品を単に当時の社会的変動を正確に映し出す鏡として見なすのではなく、作品と社会の相互的な影響関係を解読すること、さらにテキストに表象される放浪と、現実的な社会現象としての放浪との断層線(fault line)を明らかにすることである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代初期英国の文学作品や

文学的言説において表象される放浪のテーマと、当時の英国都市・農村の変動およびそれによって生じる民衆の心性との関連性について、次の(1)から(4)の項目に焦点を合わせて、包括的に分析を行うことである。

(1) 近代初期英国の文学において表象される放浪の概念を規定し、放浪文学と定義づけられる作品の分類および特徴を明らかにする。放浪文学は①Thomas Nasheの*The Unfortunate Traveller*やShakespeareの*King Lear*や*Coriolanus*など具体的に放浪がテーマとなっている作品、②都市を徘徊・漂泊する詐欺師や香具師が活躍する悪漢文学(rogue literature)、③Thomas Middletonの劇に代表される、都市流入者を主人公とする市民喜劇(city comedies)、④遍歴の騎士(wandering knight)が描かれるEdmund Spenserの*The Faerie Queene*などの叙事詩、⑤Spenserの*The Shepheardes Calender*やSir Philip Sidneyの*The Countess of Pembroke's Arcadia*をはじめとする、放浪の主題を含むパストラルやパストラル・ロマンス、に大別されるが、それらの特徴をジャンルごとに析出し、その共通点、相異点を明らかにする。

(2) William Harrisonの*The Description of England*、Sir Thomas Smithの*De Republica Anglorum*、John Stowの*A Survey of London*など近代初期英国の都市・農村の変動を物語る一次資料および、それらの資料を分析した現代の歴史学研究書を批判的に精査・検討し、そうした社会的変動がもたらした当時の民衆心性の特徴を析出する。

(3) Records of Early English Drama や E. K. Chambersの*The Elizabethan Stage* (1923)、Glynne Wickham 他編の*English Professional Theatre, 1530-1660* (2000)などの演劇史関連の一次資料を精査し、当時の演劇を含めた文学作品が生成・表象される過程と、上記の社会的変動の様態との関連性を明らかにする。

(4) (1)から(3)の分析過程で明らかになった近代初期英国における放浪文学の特性およびその生成過程と、16、17世紀の英国都市・農村を中心とした流動的社会と民衆の心性との関連性を包括的に解明する。

予想される結果は、本研究によって①近代初期英国において、放浪のテーマが従来考えられていたより広範に、重層的に文学テキストをはじめとする種々のテキストに浸透し、展開されていること、②放浪のテーマを核にして、文学テキストが当時の社会的変動の一

方的な反映ではなく、後者が前者のテキスト生成を加速させる一方で、前者は後者を批判しつつバックアップするという、相補的關係にあったことが、証明されることである。

3. 研究の方法

(1) 近代初期英国の放浪文学のジャンルに分類される作品を分析し、それらの作品で表象される放浪の概念を規定し、その特質を明確にすること。①Shakespeareの劇作品——*The Taming of the Shrew*、*King Richard II*、*King Lear*、*Coriolanus*などの放浪をテーマとした作品——の分析。Thomas Middletonの*A Trick to Catch the Old One*に代表される市民喜劇、そして放浪文学の系譜に連なるMiddletonとW. Rowley共作の*The Spanish Gypsy*やRichard Bromeの*A Jovial Crew*、or *The Merry Beggars*などの劇作品において表象される放浪の概念を分析し、それと各作品の構造およびテーマとの関連について考察する。さらに近代初期英国における劇という特殊な芸術形態・ジャンルと放浪のテーマとの関連性について検討する。②Edmund Spenserの*The Faerie Queene*などの近代初期英国叙事詩において描かれる遍歴の騎士がたどる放浪の軌跡について研究し、叙事詩で表象される放浪の概念と①によって析出されたそれとを比較・検討する。③放浪への憧憬を内包するパストラル文学——Edmund Spenserの*The Shepheardes Calender*、Sir Philip Sidneyの*The Countess of Pembroke's Arcadia*、Shakespeareの*A Midsummer Night's Dream*、*As You Like It*など——における放浪の概念を分析し、パストラル文学が要請する放浪概念の特殊性を明らかにする。

(2) ピカレスク・ノヴェルの先駆けとなるThomas Nasheの*The Unfortunate Traveller*、そしてJohn Awdeleyの*The Fraternity of Vagabonds*、Thomas Harmanの*A Caveat for Common Cursitors Vulgarly Called Vagabonds*、Robert Greeneの*A Notable Discovery of Cozenage*、*A Disputation between a He-Cony-Catcher and a She-Cony-Catcher*など悪漢文学のジャンルに分類される作品において表象される放浪の概念を精査し、その概念と各作品の諸テーマとの連関およびピカレスク・ノヴェルや悪漢文学というジャンルとの相関関係について分析する。

(3) William Harrisonの*The Description of England*、John Stowの*A Survey of London*、R. H. TawneyとE. Power編*Tudor Economic Documents*、F. J. Furnivall編*A Supplication for the Beggars*、Sir Thomas

Smithの*De Republica Anglorum*などの一次資料を用いて、近代初期英国の都市・農村を舞台にして起こった社会的変動を分析する。そのさいに単に都市・農村の人口などの数量的変化を探るのではなく、フランスのアナール学派の歴史研究が提示する民衆の心性の変遷についても分析を行う。

(4) Robert Cowleyの*An Information and Petition against the Oppressors of the Poor Commons of This Realm*、Andreas Hyperiusの*The Regiment of Poverty*などの貧困をめぐる一次資料を活用して、16、17世紀英国における貧困や慈善と、都市・農村の変貌との関連について分析する。そのさい Felicity Heal 著 *Hospitality in Early Modern England* (1990) が提起する視座と方法論を援用して上記の分析を行う。

(5) A. L. Beierの*Masterless Men* (1985)、Christopher Hillの*The World Turned Upside Down* (1972)、Steve Rappaportの*Worlds within Worlds* (1989)、Ian W. Archerの*The Pursuit of Stability* (1991)などの現代の歴史研究書が提示する、近代初期英国の社会的変動についてのデータを精査し、上記の(3)(4)(5)の分析の結果と照合したうえで、社会的変動を促したファクターについて多角的に究明する。

(6) 上記の分析の結果を総合して、近代初期英国における放浪の概念を定義づけ、放浪文学というジャンルの生成メカニズムを解明し、文学的表象としての放浪が、当時の都市・農村のダイナミックな変容といかなる関係を結んでいるかについて検討する。

4. 研究成果

近代初期英国の文学における放浪のテーマと当時の英国都市・農村の変動および民衆の心性の変化との関連性について以下の諸点を解明したことである。

(1) 近代初期英国の放浪文学のジャンルに属するShakespeareの*The Taming of the Shrew*、*Hamlet*などの劇作品と、Thomas Harmanの*A Caveat for Common Cursitors Vulgarly Called Vagabonds*などの悪漢文学、そしてAn Acte for the punishment of Vacabondes and for Releif of the Poore and Impotent (1572)などの当時の浮浪者取締法や救貧法がインターテクスチュアルな関係を結んでいるだけでなく、これらのテキストが共通して、境界侵犯をその特徴とする即興的演劇性を備えていること。*The Taming of the Shrew*に関しては、浮浪者取締法で規定され、悪漢文学に描かれた放浪者が劇の主人公となり、

劇のテーマである境界侵犯を具現する存在となっていることを指摘した。

(2) 近代初期英国において、放浪は単に身体的異動を意味していたのではなく、共同体、とくにロンドン中心部・周縁部にあって根無し草的生活を営む人びと(とくに若者)の不安を包摂する概念であったことを踏まえ、そうしたデラシネ的主体が*The Taming of the Shrew*をはじめとする当時の文学作品に表象されていること。

(3) Shakespeareの*As You Like It*や*King Lear*などのパストラルに属する放浪文学が、囲い込み(エンクロージャー)に代表される当時の社会的変動だけでなく、浮浪者取締法や救貧法、悪漢文学、そして国王の行幸(progresses)や宮廷仮面劇(court masque)などの宮廷祝祭のパジャント(pageants)の諸側面を吸収・表象していること。*King Lear*における国王一行による荒野の彷徨がそうであるように、近代初期英国の放浪文学においては、放浪のパラダイムのひとつとして、同時代の国王の行幸が存在したこと、そして放浪文学において描かれる風景や人物は、行幸のさいに国王が通過する空間に配置されるスペクタクルがその原型になっていることを解明した。

(4) Patricia Fumertonが*Unsettled* (2006)において再現してみせた、近代初期英国を漂泊していた女性たち(masterless women)が*All's Well That Ends Well*や*King Lear*、あるいは*The Faerie Queene*などに描かれた女性像や女性化した男性像の原型になっていること。

(5) Thomas Dekkerの*The Belman of London*や*O per se O*などの、近代初期英国を活写している悪漢文学に登場する悪漢=放浪者(Abraham-man、abram cove)が、*King Lear*をはじめとする放浪文学において再表象されていること、そしてその再表象が、当時の虚構世界と現実の間に環流していた、虚実皮膜の様態を出現させる社会的エネルギーの存在を証明していること。

(6) 近代初期英国の放浪文学においては、*Coriolanus*におけるMidlands地方の農民暴動(1607)の表象に具体化されているように、放浪を生み出すきっかけとなった経済的・政治的要因が、転位・歪曲される形で表象されること。*Coriolanus*の場合、農民暴動と結びついた放浪の影は、貧困にあえぐローマ市民ではなく、執政官候補者*Coriolanus*に投影されている。

(7) 近代初期英国の放浪文学に属する劇作品においては、メタシアターの場面で当時の放浪者たちが弄した演劇的術策やジェスチャーが援用されていること。*Coriolanus* の場合、主人公が執政官になるために「広場」で傷口を披露するという「見せ物」は、Thomas Harman の *A Caveat for Common Cursitors Vulgarly Called Vagabonds* などの悪漢文学において暴かれる放浪者＝トリックスターの手管と不可分の関係にある。

(8) 近代初期英国の放浪文学において描かれる放浪と、当時の社会が抱いていた女性化に対する不安が結びついていること。*King Lear* や *Coriolanus* においては、演劇排撃論で提起される、女装が招来する女性化に対する不安と、演劇と放浪に共有される周縁性が共鳴し、放浪という現象と、性やジェンダーの不安定性と結びついている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

名古屋大学学術機関リポジトリ・アドレス
<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/handle/2237/5440>

- ① 滝川睦、「*Coriolanus* における放浪と女性化をめぐる不安」、『名古屋大学文学部研究論集』、第55巻、11頁、23頁、2009年、査読有り
- ② 滝川睦、「“O How This Mother Swells Up toward My Heart!” ——*King Lear* における放浪の諸相——」、『名古屋大学文学部研究論集』、第54巻、39頁、51頁、2008年、査読有り
- ③ 滝川睦、「Christopher Slyはどこへ消えたのか——*The Taming of the Shrew* と近代初期英国における放浪との関連性について——」、『名古屋大学文学部研究論集』、第53巻、1頁、14頁、2007年、査読有り

6. 研究組織

(1) 研究代表者

滝川 睦 (Takikawa Mutsumu)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90179573